

消防と人命救助にちなむ日本切手

平岩道夫 (切手評論家)



写真①



写真③



写真②



写真④



写真⑤

これまで日本で発行された切手のうち、“炎と風”を描いた防災記念切手（1984年8月23日発行）をはじめ、数種の消防や人命救助に関する切手を紹介してきた。

最近、東京のある講演会で、たまたま本誌を愛読下さっている方にお目にかかったが、「消防や防災、人命救助といった関連の日本切手は他にどれくらいあるのか」といった質問がでた。そこで本号では、そういった日本の切手をあげてみると――

（写真1）第27回万国外科学会議記念切手で、“人命救助には欠かすことができない手術室の外科医”が描かれている。1977年9月3日発行。ちなみにこの会議には64カ国から33,000人の研究者らが、京都会館に集まり開催された。

（写真2）国際赤十字献血年記念切手で、“人命救助には忘れられない採血ビンと地

球にハト”を描き、さらに日本人の血液型の比率を示す“ローマ字”が描かれた変わりダネ。1974年7月1日発行。赤十字連盟が、この年の世界赤十字デーに“献血”の大切さをPRするために発行された。

（写真3）東名高速道路完成記念切手で“酒匂川橋付近を走る乗用車”を描いたもの。1969年5月26日発行。車社会といわれる反面、残念ながら事故は多発、救助活動も大忙し……といったのが現状。

（写真4）赤十字思想誕生100年記念切手で、“看護婦の活動”を描いたもの。1959年6月24日発行。

（写真5）第16回国際看護婦協会大会記念切手で、“看護婦の国際交歓”を描く。1977年5月30日発行。我が国に100カ国1,200人以上の看護婦が参加し、多大の成果をおさめた。